【別表３】

令和元年度　小学校5年生　英語学力調査

［新教育課程対応版（東京書籍）］

◇総合正答率　（%）

	校内平均	市町村平均
全体	86.1	85.8

◇出題の形式別正答率　（%）

出題形式	校内平均	市町村平均
聞く問題	86.4	85.4
書く問題	85.7	86.5

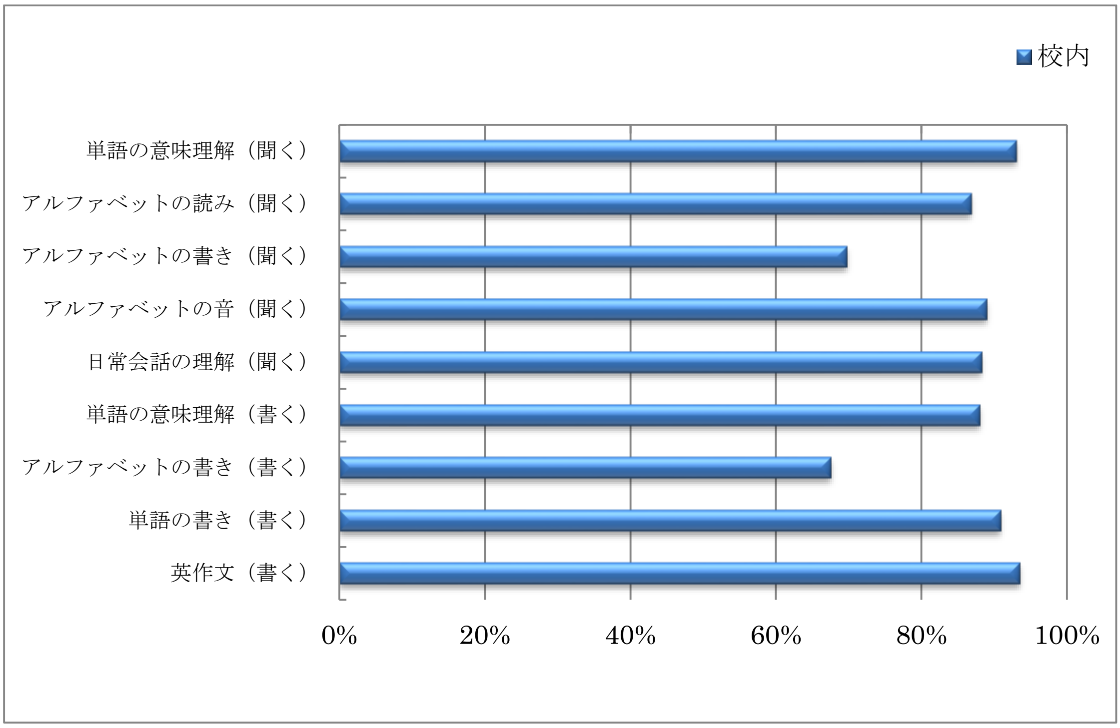
新教育課程の学習内容がどれだけ定着しているかを客観的に見るために、昨年度から５学年全自動を対象に学力調査を実施している。

今年度は、平均正答率が 86.1%、正答率 9 割以上の位置にピークがあるなど、全体として学習内容が定着しているといえる。

対象者は異なるものの、昨年度の５年生（82.5%）と比較しても向上している。

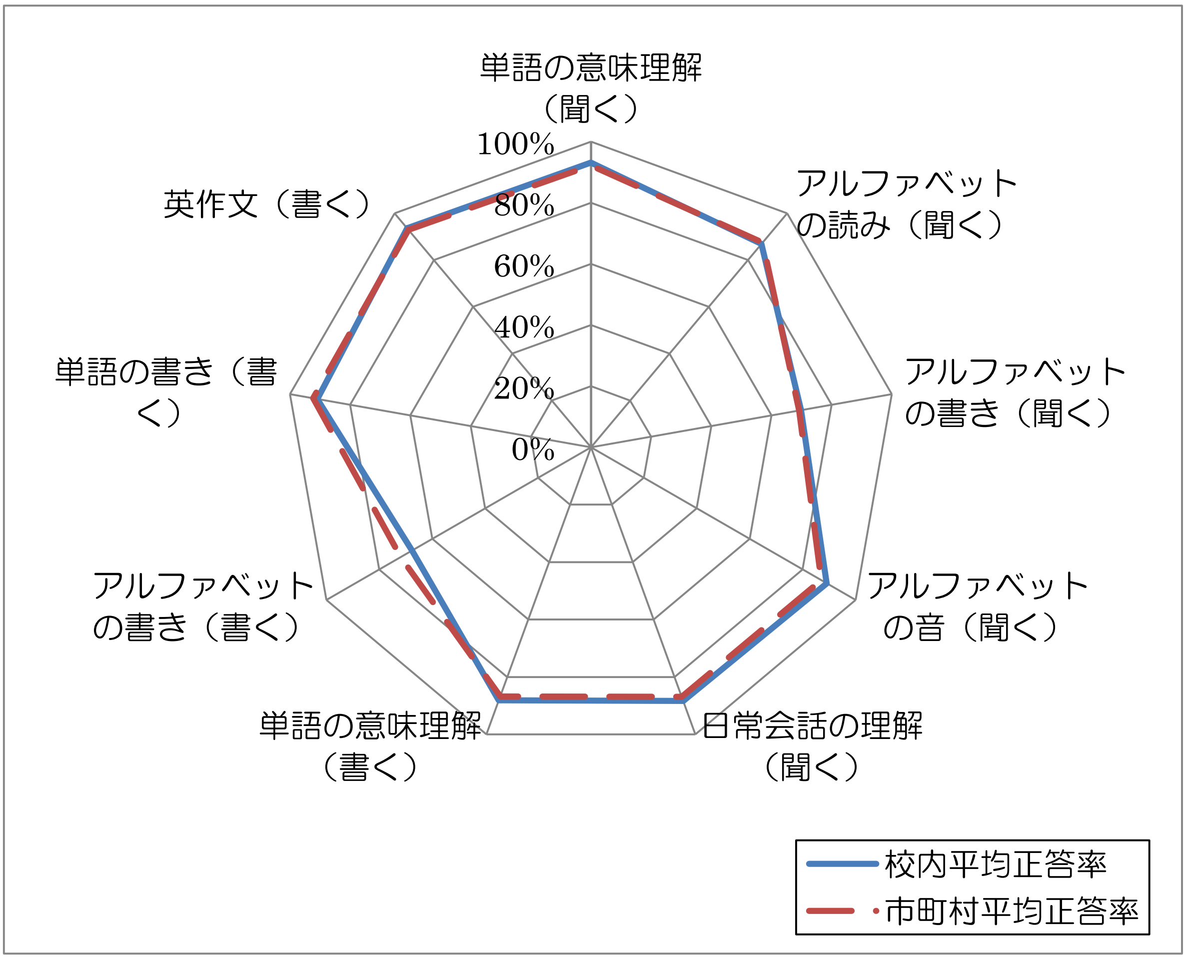
しかしながら、アルファベットを書く問題などの正答率が低いことから、繰り返し丁寧に指導する必要がある。

◇問題の内容別正答率

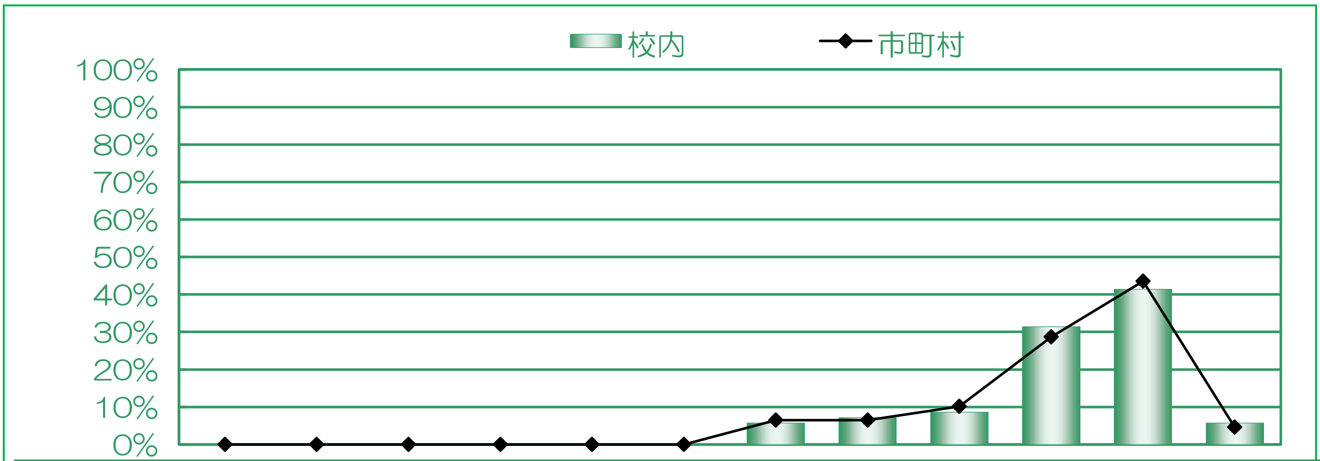


（%）

正答率
校内
93.1
86.9
69.8
89.0
88.3
88.1
67.6
91.0
93.6



◇正答率度数分布



正答率		0%	0%を超えて10%未満	10%以上20%未満	20%以上30%未満	30%以上40%未満	40%以上50%未満	50%以上60%未満	60%以上70%未満	70%以上80%未満	80%以上90%未満	90%以上100%未満	100%
児童の割合	校内	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	7.1	8.6	31.4	41.4	5.7
	市町村	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	6.5	10.2	28.7	43.5	4.6

令和元年度　小学校6年生　英語学力調査

[新教育課程対応版(東京書籍)]

新教育課程の学習内容がどれだけ定着しているかを客観的に見るために、昨年度から６学年全自動を対象に学力調査を実施している。

今年度は、平均正答率が 86.4%、全問正解の児童を合わせると、９割以上正解の児童が 52.0%という結果が出ている。正答率９割以上の位置にピークがあるなど、全体として学習内容が定着しているといえる。

対象児童が５年生の時の結果(82.5%)、及び、昨年度の６年生の結果(84.4%)と比較しても向上している。

特に、例文を参考に自己紹介文を３文以上書く問題の正答率 100%に近いことは成果をいえる。

しかしながら、他校に比べ、アルファベットの音を文字に直す問題や、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書きなれた単語の意味理解に課題があることから、今後はm文字を意識させる指揮の充実が必要である。

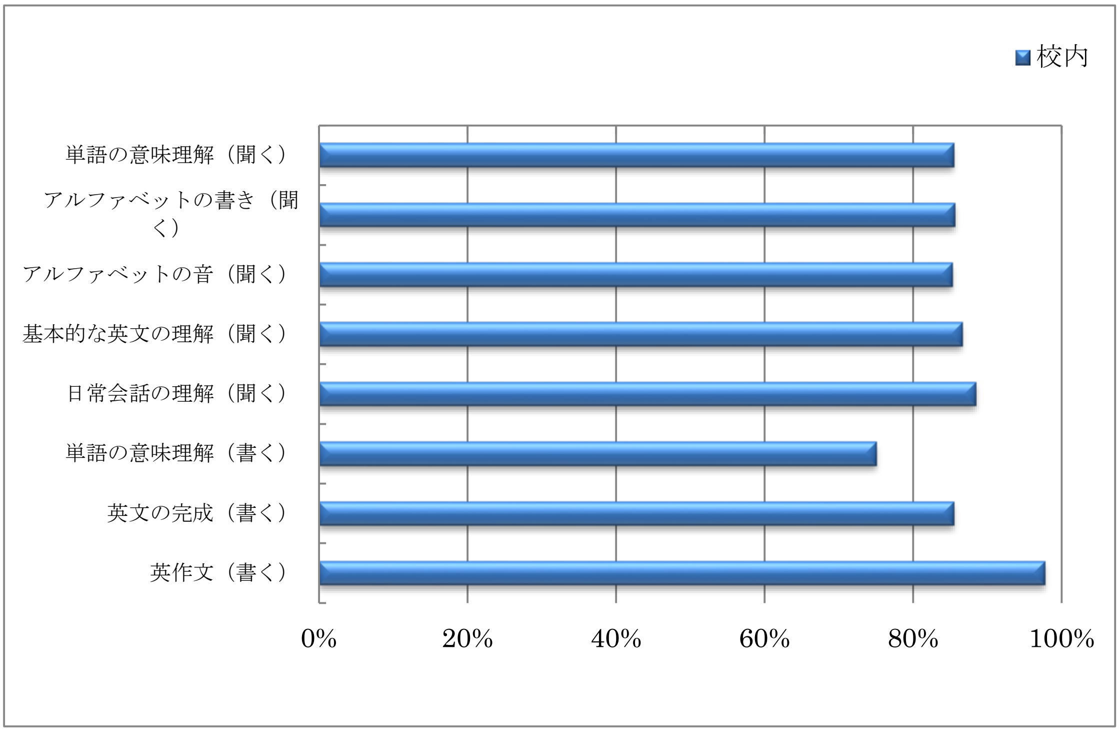
◇総合正答率　(%)

	校内平均	市町村平均
全体	86.4	87.1

◇出題の形式別正答率　(%)

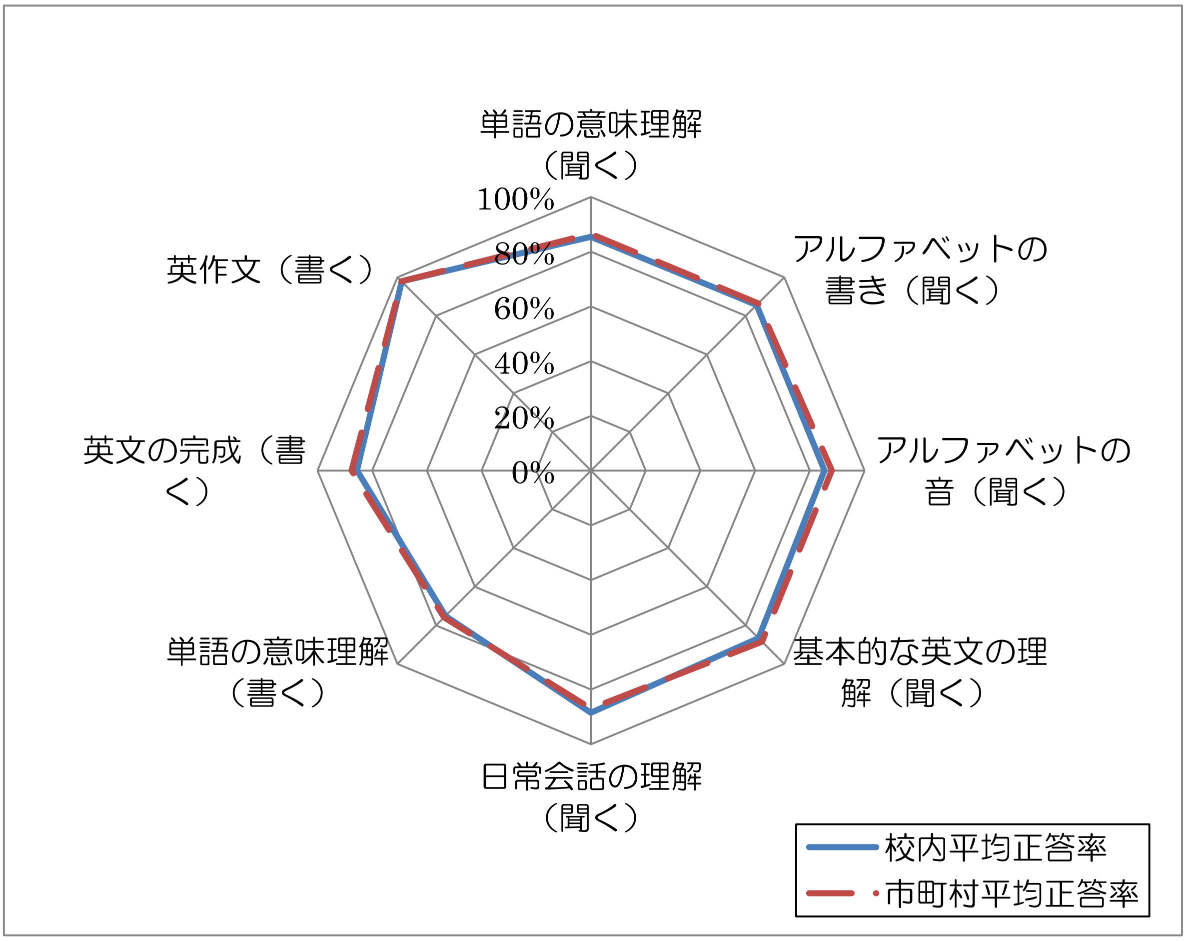
出題形式	校内平均	市町村平均
聞く問題	86.6	87.0
書く問題	86.0	87.2

◇問題の内容別正答率

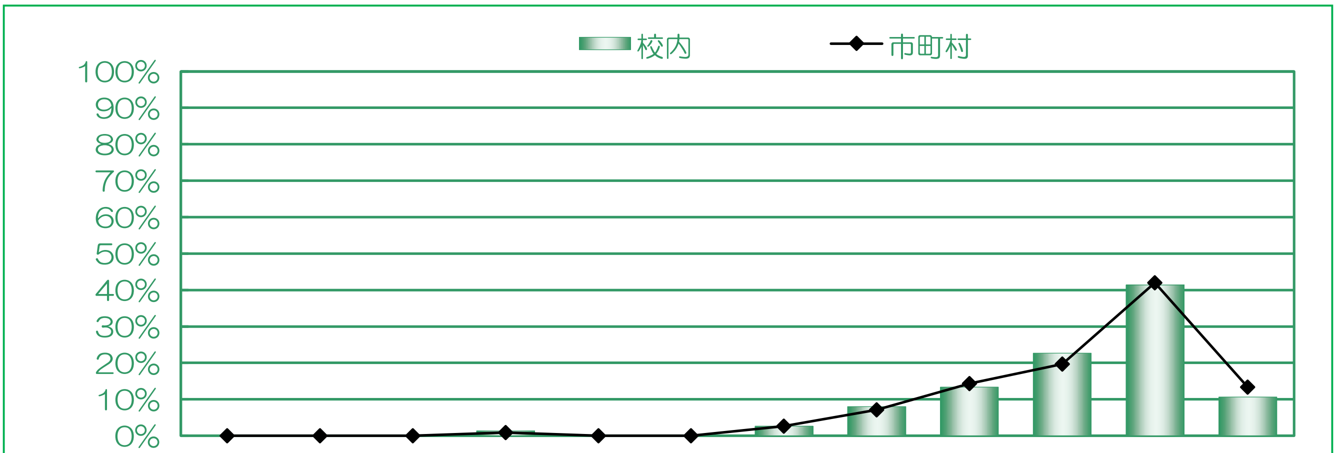


(%)

正答率
校内
85.5
85.7
85.3
86.7
88.5
75.1
85.6
97.8



◇正答率度数分布



正答率		0%	0%を超えて10%未満	10%以上20%未満	20%以上30%未満	30%以上40%未満	40%以上50%未満	50%以上60%未満	60%以上70%未満	70%以上80%未満	80%以上90%未満	90%以上100%未満	100%
児童の割合	校内	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	2.7	8.0	13.3	22.7	41.3	10.7
	市町村	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	2.7	7.1	14.3	19.6	42.0	13.4